

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

▽総合的な学習の時間

本校では総合的な学習の時間を「むらさきの Global Action Program」と位置づけ、持続可能な開発をテーマに活動を行ってきた。具体的には、1年前期にまず「持続可能な開発」の概念について学習をすすめ、そのまとめとして「持続可能な社会を目指して私にできること」のタイトルで800字の小論文レポートを作成させ、校内でのコンテストを実施した。1年320名全員が参加している。本校では1年生の3月に全員が海外研修を行う。そこで1年生後期は、その行き先であるマレーシア・オーストラリアをテーマに、日本と両国のつながりを意識した授業を行った。例えば、「パーム油の長所とプランテーションによる環境破壊のジレンマ」という内容で議論したり、マレーシアについて調べたことをポスターにまとめ発表を行ったりした。

2年生普通科スタンダードコースでは日本の伝統文化を継承するために自分たちができることを企画した。現在伝統文化が持つ様々な課題を検証し、それに対する持続可能な取り組みを1年生、2年生に向けてポスターセッションで発表し意見交換を行った。またアドバンスト科とアカデミア科では科学や国際理解をテーマにプレゼンテーションを行った。

その他に「世界一大きな授業」や、京都産業大学と人づくり21世紀委員会の北区人づくりネットワーク実行委員会の方々と協力し、上賀茂地域で伝統的に続けられている紅葉音頭の継承についてワークショップ等を行った。そこで灯籠を作り、上賀茂神社での観月祭で展示した。

▽海外研修

本校では1年生普通科がマレーシアの文化、言語、宗教、習慣など異文化を体験しながら国際理解、環境問題について考える研修を、1年生アカデミア科ではオーストラリアのクイーンズランド州トゥーンバ市の南クイーンズランド大学で語学研修、大学生との交流、またアボリジニ文化体験などを行った。

その他に京都市立高校から代表生徒30名が選出される「グローバルリーダー育成研修」へ本校より7名が参加した。

▽国際交流

本校では海外の高校生との交流が盛んに行われている。例えば、被災地と米国の生徒・教職員が相互に交流を推進する「TOMODACHI・MUFU 国際交流プログラム」で、アメリカ・カリフォルニアの高校生20名と日米相互理解を目的に交流した。また本校はオーストラリアに姉妹校シュバリエカレッジがあり、本年は短期留学生17名、引率教師2名とホームステイや学校生活、近隣の散策等を通じて大いに文化交流を行った。

その他にも中国、台湾から来日した高校生と1日交流する機会があり、伝統の踊りや歌を見学したり、日本の文化紹介として折り紙を一緒に折ったり、書道で自分たちの好きな言葉を書いたりして交流した。

▽地域への参画（ボランティア活動）

京都紫野ロータリークラブ主催で紫野地区清掃活動を行った。また本校のすぐ近くにある今宮神社の今宮祭にて、鉾町での準備から祭礼列のボランティアに参加し日本伝統文化に触れた。

その他に第二回能舞台フェスタが今宮御旅所にて行われ、本校の放送局、ESSが日本語と英語で司会をした。また京都マラソンにて各部活の部員が給水のボランティアとして運営をサポートした。

▽その他

本校では京都市の中学生向けに授業を行い、本校の掲げるESDの特色を説明し、「世界中の子どもたちが教育を受けるにはどうすればよいか」というワークショップをオールイングリッシュで行った。また発展途上国への教育支援活動である「ユネスコ世界寺子屋運動」への協力のために、生徒会が「書きそんじハガキキャンペーン」に取り組んだ。

その他にインドネシアで実施されたビジネスアイデアコンテストであるiSEC世界大会に8名の生徒が出場し、与えられた課題に対しSDの観点から解決を目指すアイデアを提案し、14位という結果を残した。また1年生アカデミア科を中心に京都文化検定3級を受検し、計3名の合格を果たした。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）